

気仙沼復興商店街会長
南町夢通り会長
南町地区代表 村上力男 様

気仙沼市南町およびその周辺地区の復興に向けての提案

——海と共生する気仙沼市中心市街地の新たな街づくりを進めるために——

東北工業大学 新技術創造研究センター
気仙沼市南町および南町海岸復興プロジェクトチーム
教授 今西肇

3月11日の震災発生から、すでに6カ月が過ぎました。この間、地域の皆様と一緒に、時には村上さん宅で、時には地元のお寺で、時には公民館でこの町の将来を話しこんできました。私たちができることは何だろうかと考え、この地区の未来を描こうと、浜見山から入り江を眺めておりました。

この地区にはすばらしい資源がいっぱいあります。だから、気仙沼の地域では一番先に開けたところでもあると自負しています。現行の法律に縛られることなく自由な発想をすると、そこには魅力的な空間と時間と人間があります。

構造物はほとんど津波により流され壊されましたが、我々にはまだ、「人」と「自然」という資源が残されています。なにより、若者の将来に向かって立とうとする情熱が残されています。

そこで、南町および南町周辺地域の将来の計画を含めた復興の基本的な方針を考えましたので、ぜひ、ご覧いただき、ご支援いただけますことをお願い申し上げます。

1. 気仙沼南町周辺の復興に向けての基本的な考え

- (1) 地震や津波は自然現象であり、津波リスクを受け入れ、今まで居住・営業していた地域で活動できるようにする。
- (2) 地元住民の望む方向を具現化した地域復興地図をつくる。
- (3) 地盤が 60cm から 70cm 沈下しているのを嵩上げをする。その土材料は海岸沈下地域の一部掘削土（埋立土）および被災残壊物であるがれきを用いる。
- (4) 防潮堤をつくらずレベル1の津波から生命と財産を守るためには、宅地・商業地の地盤の嵩上げやデッキ構造の人工地盤をつくる。（防災または減災）
- (5) レベル2の津波から生命を守るためには、建物基盤面が十分に高くない場合には、地下シェルターを持つ住宅や中高層階の耐浪性を備えた建物を建設する。（減災）
- (6) 復興に当たりできる限り、地域からがれきや土砂を持ち込まない、持ち出さない。
- (7) 商業地でありながら高齢者などが暮らせる場所、歩いて買い物ができる便利な中層階・高層階

の住宅ビルも併設し、医療も含めて生活に必要なものがすべてそろって住みやすい町をつくる。

- (8) 今後の観光資源の高度化（品質確保）を計るために気仙沼ブランドの確立と緑と海の空間を拡充する。
- (9) 今後の同地域の資源を生かすためには、現在の立体駐車場を撤去して自然と一体型の共同駐車場（嵩上げ地盤内や盛土内）を設ける。
- (10) 特徴のある街並みをつくり、若者向けとファミリー向けの観光資源を創造する。
- (11) 高速道路・鉄道はもちろんのこと海路を利用した新たな仙台からの高速船などの運航を確保する。

2. 気仙沼南町周辺の津波災害をどのように回避するのか？

災害は人災なのだろうか天災なのだろうか。科学技術を駆使して災害を防止しようとしたが困難だった。その科学技術により守られていると信じていたため、本来持たなくてはならない「自己防衛本能」がきちっと機能しなかったかもしれない。

人間が生活をする限り自然といつも対峙している。（「自然」の反語は「文化」である。）そして、人間は科学技術の進歩を期待しながら自然と共存して生きていかななくてはならない。

- (1) 社会と協調しながら個人の生命や財産は個人で守る意識を持つ。社会に頼りすぎない。
- (2) 今後 50 年から 100 年後の科学技術の進歩を信じて、防災だけを考えない。
- (3) 災害に対するリスクマネジメントの考え方は、四つの方法がある。
 - ① 回避：リスクの原因となる活動を見合わせ、又は中止すること（逃げる）
 - ② 低減：リスクの発生可能性や影響を低くするための対策（防災、減災）
 - ③ 移転：リスクの全部又は一部を組織の外部に転嫁すること（保険など）
 - ④ 受容：リスクを受け入れること（被害が小さい場合など）
- (4) したがって、気仙沼南町周辺では、実行可能な低減処置をし、財産などは保険などをかけ、数百年に一度のリスクを承知でそこに住み経済活動をする。
- (5) 実行可能な低減処置とは、長大な防潮堤に頼らず、海岸から段階的に数メートルの嵩上げのみを行う。
- (6) 財産などは地震津波保険で対応する。この場合、新たに土地に対しても何らかの保険の新商品が必要となる。
- (7) リスクを承知でその場所にすむためには、生命の安全を最低限守らなければならない。そのためには、中高層階の耐浪性を備えた建物や地下シェルターと避難道路の拡充が必要である。
- (8) 中高層階の耐浪性を備えた建物は、避難誘導が容易なように、階段や廊下の空間は広く取るようにし、人々が集中しても短時間で避難できるようにする。また、これらの建物には嵩上げた土地の内部に地下駐車場を整備する。ただし津波や高潮の来襲時には、海水などが浸入しないような工夫が必要である。
- (9) 地下シェルターとは、嵩上げた土地の内部にコンテナ 1 個分程度の構造体を埋設し、緊急時に逃げ遅れてもその中に隠れることができるようにする。この場合、最低限の食料・水・燃料

の備蓄や個人の貴重品の保管場所としても利用できるようにすると同時に、平時には生活場の一部として利用する。構造などの詳細は後日検討。特に、生活弱者が集まる場所である病院や養護施設などでは高層階を持つ構造物より避難の時間が短く効率的である。

- (10) 避難道路の拡充とは、この地域の特徴である海から周辺の丘まで伸びる複数の幅の広い避難道路のことである。これは海辺の景観を良くすると同時に災害時の避難経路にもなる。
- (11) また、周辺の丘に登る空中遊歩道の充実を行う。避難住民が平地から丘に上がるための施設である。
- (12) また中高層ビルからはこの空中遊歩道への通路を整備する。

3. 気仙沼南町周辺の経済復興のためのアイデア

復旧の足音は確実に高くなってきている。しかし、その後の復興に関しては、地域振興を含めて、今までの地域特性や歴史を踏まえてじっくりとしかし実行可能な方向で考えなくてはならない。以下のアイデアは、その可能性として示すものである。

また、この地域は、商業地でありながら高齢者などが暮らせる場所を目指しており。歩いて買い物ができる便利な住宅も併設することを考える。いわゆるコンパクトなまちづくりである。そこに住む人が快適な空間として使えるように、南町周辺が一つの完結した集落とした発想の町でもある。それは医療も含めて生活に必要なものがすべてそろった町でなければならない。

3.1 南町の海岸に面した部分に親水型公園の拡充

- (1) 嵩上げのために南町岸壁部の一部掘削を行い海を陸に引き込み、海岸公園を拡充し観光港としての風情を醸し出す。
- (2) ただし、気仙沼漁港は特定第3種漁港であり、利用範囲が全国的な漁港のうち、水産業の振興のためには特に重要であるとして政令で定められた漁港なので、管理者との協議が必要となる。
- (3) 海上レジャーを楽しむプレジャーボートの係留地としても利用する。
- (4) 掘削した土砂は、分別された廃棄物と一緒に南町地区の地盤の嵩上げに用いる。
- (5) 岸壁から50mから100m区間の緑地公園化。
- (6) 遊歩道および空中遊歩道を整備し、ゆったりとしたウォーキングを楽しみ、見晴らしのいい場所でゆっくりと過ごす。
- (7) 嵩上げするため、上下水道や電気・ガス・通信などを共同溝を作って収納し、耐震設計によりインフラの整備をする。
- (8) 駐車場はこの嵩上げた内部に埋設するようにして建設する。

3.2 南町、魚町地区に気仙沼本来のレストランモールの再興

「モール」の意味は並木やベンチなどのある遊歩道という意味です。

- (1) 安くてボリュームたっぷりの海の幸（若者・ファミリー用）を提供できる屋台や長屋（間口が狭いもの）が数十軒並ぶ「屋台モール」を作る。
- (2) 主な食材は、フカヒレ、夏はカツオ、秋はサンマ、冬はメカジキなどで充実させる。

- (3) 絶品のひと口高級海の幸（熟年用）が味わえる割烹、すし通りなど「絶品モール」を作る。
- (4) ホテルの宿泊設備と地元飲食街のタイアップで、宿泊施設と飲食店の共存を計る。地酒通りをつくる。ソフトドリンクも地元の屋号風などのデザイン缶による販売

3.3 魚町、南町地域に若者向けのモールの創設

- (1) 屋号風の魚町と南町全体がモール化（遊歩道やショッピングモール）
- (2) 地域の若者向けおしゃれなアパレル関係の店と喫茶店などの「おしゃれモール」をつくる。

3.4 南町から八日町にかけてちょっと落ちつける芸術空間の創造

- (1) 全壊率がこの地区では最も少ないので、その街並みを利用して「芸術モール」をつくる。
- (2) 昔の町のたたずまいが残っているのでこれを利用して、回廊形式の美術品（絵画・彫刻・陶芸など）を展示するギャラリーにする。
- (3) 三味線とジャズ、着物とジーンズが同居するオープンカフェ的な空間

3.5 商業・居住空間の充実、

- (1) 各店舗の上階には、住空間が広がることを目指す。
- (2) 夜になると人口が過疎になる地域ではなく、そこに住民がいることを考える。
- (3) 住民はこの地域の生活の質の高さを実感できる施設や商店により住みたいまちづくりを目指す。

3.6 文化・居住空間の充実

- (1) 南町1丁目の山側には10階建て程度の高層住宅を建設する。この屋上にはヘリポートを整備し緊急時に活用できるようにする。この住宅は裏山の遊歩道に連結する通路を有する。
- (2) またその隣には子供アートホールを建設し、子ども文化の中心地としての機能を有する情報発信基地とする。
- (3) 魚町1丁目の山側においても中層階の住宅を建設する。この住宅は裏山の遊歩道に連結する通路を有する。

3.5 交通の確保

- (1) 仙台港と気仙沼港を結ぶ定期航路開設と南町海岸公園の拡充
- (2) 1時間30分以内で仙台港と気仙沼港を結ぶ海の新幹船（ジェットホイールの就航）
- (3) 高速道路や鉄道などの施設の充実を目指す。

以上、

4. 活動記録

平成 23 年

- 5月5日： 第1回現地踏査・南町地域懇談会
- 5月11日： 第1次企画案提出
- 5月18日： 第1回チーム会議
- 5月25日： 第2回現地踏査・南町地域懇談会
- 6月1日： 第2回チーム会議
- 6月6日： 第2次企画案提出
- 6月7日： 気仙沼市役所訪問
- 6月10日： 第3回チーム会議
- 6月18日： 第3回現地踏査・南町地域懇談会
- 7月15日： 気仙沼市役所訪問、第4回現地踏査・南町地域懇談会
- 7月21日： 第4回チーム会議
- 8月9日： 気仙沼市役所訪問、第5回現地踏査・南町地域懇談会
- 8月18日～19日： 第6回現地踏査・南町地域懇談会
- 8月18日～21日： 映像記録チーム取材
- 8月20日： 第3次企画案提出・第5回チーム会議、第7回現地踏査・南町地域懇談会
- 8月27日： 南町・魚町・八日町三町懇談会
- 8月28日： 第8回現地踏査・南町地域懇談会
- 8月28日： 南町・魚町・八日町合同ワークショップ
- 9月1日： 第4次企画案提出・第9回現地調査・南町地域懇談会
- 9月16日： 第6回チーム会議
- 9月18日： 第9回現地踏査・南町地域懇談会
- 9月24日～25日： 映像記録チーム取材
- 10月1日： 第5次企画案提出

5. プロジェクト関係者

1. 気仙沼市南町およびその周辺地域の関係者

気仙沼復興商店街会長・南町夢通り会長・南町二区自治会長 村上力男（南町代表者）

南町一区自治会長 千葉秀宣

南町三区自治会長 鈴木武雄

南町夢通り副会長 齋藤 宏

南町粕崎青年会長 坂本正人

気仙沼市復興協会理事長 小野寺幸雄

2. 気仙沼市南町および南町海岸復興プロジェクトチーム

東北工業大学 新技術創造研究センター「地域復興のための共同プロジェクト」事業

プロジェクト名：気仙沼市南町および南町海岸復興プロジェクト

主たる研究室：東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科 地域共同研究室

研究代表： 教授 今西肇（都市マネジメント学科、地盤工学、プロジェクトマネジメント）

imanishi@tohtech.ac.jp, 022-305-3550

研究参加者： 准教授 猿渡学（経営コミュニケーション学科、映像）

准教授 菊池輝（都市マネジメント学科、都市の交通心理）

講師 福屋粧子（建築学科、住環境、まちの景観）

コーディネータ： 菅原玲（新技術創造研究センター）

r.sugawara@tohtech.ac.jp, 022-305-3800